

このコーナーでは、農業のちょっとしたコツを、市の営農指導員からお知らせします。

営農指導員のワンポイントアドバイス

営農指導員 永奥 啓

早春に出荷するハナナの栽培

経営上の特性

ハナナは2月下旬〜3月ごろの、他の花が少ない時期の出荷になるため、有利販売が期待できま

す。高単価での販売というわけにはいきませんが、生育の問題になるような病害虫も少なく、管理労力も少なく済む、省力型の花だといえるでしょう。

通常、花市場に出荷する場合は暖地での露地栽培が主流ですが、直売所への早春出荷の場合はハウス栽培を行います。



栽培の概要

主に市内では秋に播種（種まき）し、3月頃に切り花をするため、ハウスでの保温が必要になります。

大量に売れる花ではないため、数回に分けて播種し、少量ずつ出荷するように計画的に栽培することが大切です。

栽培の方法

①ポイント

10月ごろに、何回かに分けてハウス内に直播します。

条播きかバラ播きとしますが、本葉3枚くらいの時に5〜6センチの間隔になるように間引きをします。

②肥料

肥料が効きすぎると茎が大きくなりすぎて、切り花向きでなくなります。そのため、肥えた土の場合は無肥料でもかまいません。

生育中に様子を見ながら、追肥で対応します。

③病害虫

主な病害虫は、根こぶ病とアブラムシです。

根こぶ病は、白菜やキャベツなどを何年も栽培した土で発生することが多くなるため、そのようなところは栽培を避けます。

アブラムシは冬でも増えるため、よく観察して見つけたら早め

問い合わせ

農業振興課 農業振興係

☎0824・73・1131

庄原が好き

このコーナーでは、人と人とのつながりや暮らしのストーリーを、シリーズで紹介しています。まちを知り、地元の新たな魅力を発見することで、人を、まちを、もっと好きになりますように。感じていきます。



自営で電気工事の仕事をしている堀江 慎二さん(右) 妻の道子さん

山内自治振興区の定住施策「てごおし隊」の活動へ家族4人で参加し、「地域が元気になれば」との思いで熱心に活動している、堀江さんを紹介いたします。

「てごおし隊」の出会い

山内自治振興区の寺西玉実さんに誘われて、てごおし隊の活動が始まったころから参加しています。毎回、家族の誰かが参加し、活動を通じて移住希望者や空き家の家主と仲良くなり、電気工事の仕事をいただくこともありま

す。空き家の掃除は本当に大変で、古い家電は重く、マムシや小動物などにも苦勞しています。それでも地域に貢献することができ、仲間も増え、時には仕事をいただき、人との縁は活動してこそできる、とても大切なものだと思

感じていきます。

山内クラブ

わが子を通うスポーツ少年団の山内クラブは、団員が減り、無くなる寸前でした。しかし、てごおし隊の活動を通じてつながりから、今では団員が20人に増え、活動ができています。団員の子どものための提案で、空き家の片付けで出た不要品を、山内クラブで使う道具に活用したこともあります。

関係がないように思える、二つの活動がつながったことや、物を大切にすること、子どもたちの発想に感動しました。これからも人や物の縁を大切にしていきたいと思っています。



SNSの投稿募集中「#庄原が好き」で投稿!



投稿をチェック

問い合わせ

自治定住課定住推進係

☎0824・73・1257